



2007年12月21日

各位

会社名 株式会社ジーエヌアイ
代表者名 代表取締役社長兼CFO 鈴木 勘一郎
(コード番号:2160 東証マザーズ)
問合せ先 代表取締役社長兼CFO 鈴木 勘一郎
(TEL. 03-3580-0751)

中国において F351 の第 1 相臨床試験を開始

2007年12月21日(東京)日本と中国に拠点を有するバイオ創薬企業である株式会社ジーエヌアイ(GNI)は、「本日、中国の100%子会社である上海ジェノミクスが北京においてF351の第1相臨床試験を開始した」と発表しました。F351はGNIが治験を実施している2番目の製品になります。この治験は、健常人ボランティアを対象にした負荷試験と薬物動態試験を含み、中国で最も高名な病院の一つである北京ユニオン・メディカル・カレッジ病院(PUMCH: Peking Union Medical College Hospital)で実施されます。治験プロトコールはPUMCHの治験審査委員会により検討、承認されており、ボランティアのリクルートはすぐに始まる予定です。

F351はGNIが独自開発した低分子化合物であり、前臨床試験では癥痕(はんこん)形成や肝線維症の治療において有望な結果を示しています。中国での肝線維症患者は643万人であり(出所: Chinese Department of Public Health)、毎年58万人の患者が日本の病院を訪れていると推定されています(出所: 厚生労働省患者調査(平成14年))。肝線維症や肝硬変は肝がんからさらに死に至る重篤な疾患ですが、現在満足いく治療法はありません。上海のGNI子会社はF351を開発し、最近その特許を取得するとともに、IND(Investigational New Drug)の許可を中国当局から得ていました。第1相臨床試験の目的はヒトでのF351の安全性と最適用量の決定にあります。

GNIのCEOであるYing Luo博士は「アジア、特に日本と中国でいまだ有効な治療方法のない疾患に対して新薬を開発しようとするわれわれのたゆまない努力の成果がF351の第1相臨床試験の開始に結びついています。われわれは『炎症』と『がん』にターゲットを絞っています。中国における費用対効果の高い臨床研究ネットワークと多数の患者群を活用することにより、GNIの立場は中国と日本の製薬市場開拓に向けて強固になっています。」さらにGNI社長兼CFOの鈴木勘一郎は「F351の潜在的な将来市場は非常に将来性があります。GNIは長期的な成長を目指して革新的な治療プログラムに資金を投資してまいります。」と述べています。

ジーエヌアイについて

2001年設立の創薬企業、活動拠点を日本と中国に有する。ジーエヌアイは、ヒト遺伝子ネットワークによる解析に成功、遺伝子ネットワーク技術を医薬品開発に応用しており、中国において臨床段階にある創薬候補物を複数パイプラインに持つ。2005年に中国上海ジェノミクスを傘下に収めたことにより、上海における研究および開発の拠点を構築した。両社の統合は、主要な世界的製薬会社との共同研究に結びついている。詳細は <http://www.gene-networks.com/>、<http://www.shanghai.genomics.com> をご覧ください。